「算数・数学グループ」

1回目の授業について

〇単元名　「数と計算」

〇授業名　数学（/国語）

〇生徒の構成、段階

　中２　男子1名　女子1名　（知的2）

〇目標

・５のまとまりに着目し、卵ケースに入っている個数を一目で言い当てることができる。

・10の分解をさくらんぼ算で当てはめることができる。

＜1回目の授業研後の意見＞

授業評価の視点	意　見　・　質　問
物理的環境支援	
補助的手段	・教材に卵ケースを利用したことは、生徒にとっても身近な物でもあり、興味を持たせる上でも有効であった。 ・生徒の答えを視覚化して、生徒自身が確かめられるようにするとよい。
人的支援	・生徒2人のグループで授業を行っていたが、2人がお互いを高め合ったり、刺激し合う関係性が見られよかった。
学習機会	・小学部の段階から１０の合成でつまずき、ずっと繰り返し学習を行っている。どこまで理解を求めるのか、何を題材にすればよいのか、年齢も考えると難しい
多様な評価	・授業の終わりの段階で振り返りながら自己評価をしたことで気持ちよく終わらせることができてよかった。

〇単元名　「お金の数え方」

〇授業名　数学（/国語）

〇生徒の構成、段階

　中２　男子1名　女子1名　（知的2）

〇目標

・1円玉5枚と5円玉、1円玉10枚と5円玉2枚、10円玉の一致ができる。

・1円硬貨を数えながら、5円や10円硬貨と同じ金額であること
　に気付く。

1回目の授業反省を受けて
２回目の授業の改善ポイント

〇生徒の回答したことなどを視覚化して、生徒自身が確かめられるようにするとよい。

→　問題：「5円」を表示した

答え：実際にお金を操作して結果が答えとなるようにした。

〇小学部の段階から10の合成でつまずいており、そこから先になかなか進めていない。どこまで理解を求めるのか、何を題材にするか、年齢等も考慮しながら迷うところである。

→　題材選び：生活に必要な知識・技能につながる題材。

５のまとまりを生かせるお金の数え方を選択した。

教材選び：生活年齢を考慮し、関心をもちやすい教材。

キャッシュレス時代だが、硬貨はまだ身近にあると考え選択した。

＜２回目の授業研後の意見＞

授業評価の視点	意　見　・　質　問
物理的環境支援	・ビデオ撮影をされる（人に見られる）ということで、意欲が高まり集中して授業に取り組むことができた。
補助的手段	
人的支援	
学習機会	・プリント上ではできていたが、実際のお金を使っての計算はできない。 ・実際のお金を使うことで意欲は高まったが、日常での買い物などの体験が乏しく、実際的な生活と結びつけることは難しい。
多様な評価	

授業づくりで「工夫すべきこと・配慮すべきこと」（５つの視点）

学びを高め会う学習グループの構成（生徒数等）

お金、計算機等の日常の生活で使う物

◎算数、数学

５つの視点	工夫・配慮	工夫・配慮（具体例）
物理的環境支援	・刺激の調整	視覚・聴覚・触覚・固有感覚の調整（パーテーション、席の配置、明るさ等）
	・教室内の配置	安全面、衛生面への配慮、学びやすい環境
補助的手段	・コミュニケーションツール	個の力（見え方、操作性）を発揮しやすい ITC 機器
	・視覚教材	デジタル教材の活用（視覚・聴覚で感じたことを教材を通して気付かせる）
人的支援	・適切な指導体制、人数	児童生徒に応じたねらいを達成するのに適切な指導体制、人数
学習機会	・体験的活動	体験的な学習を通して生活と教科を結びつける(数に着目させ数のまとまりや数え方に気付かせる等)
多様な評価	・友達の評価	個に応じて発表の仕方を工夫し友達の考えに関心を持たせる、友達同士の良さに気付かせる
	・教師の評価	児童生徒が失敗した時の対応を考えておく

＜課題＞

○年間指導計画について

・学習指導要領に基づき指導すべき分野がありそれらを網羅することは大切だが、より確実に学習を進めて行くためには、基礎的なことを繰り返し行っている現状がある。限られた時数の中で進めて行くことが実際的には難しい。

・生徒の将来の生活を見据え、その生活のベースに必要な課題の解決に向けた分野や題材の配列に絞っていくことも必要なのではないか。